

海部のふるさとマップ



～ 海陽町編 ～
穴喰 shishikui

穴喰年中行事

- 1月 左義長
(毎年 1月15日頃)
- 5月 船津キャンプ場
(毎年 5月1日～9月30日)
- 竹ヶ島神社祭り
(毎年 旧暦4月15・16日)
- 7月 井上神社祭り
(毎年 7月第1日曜日)
- 穴喰祇園祭り
(毎年 7月16・17日)
- 8月 穴喰港祭り
(毎年 8月10日)
- 中里盆踊り
(毎年 8月14日)
- 9月 八朔ひなまつり
(毎年 旧暦8月1日)
- 穴喰八幡神社祭り
(毎年 9月第4土・日曜日)
- 10月 伊勢エビ祭り
(毎年 10月第2日曜日)



お問い合わせ先

- 海陽町役場**
 〒775-0295
 徳島県海部郡海陽町大里字上中須 128
 TEL (0884) 73-1234 (代)
<http://www.town.kaiyo.lg.jp/>
- 役場 穴喰庁舎**
 〒775-0595
 徳島県海部郡海陽町久保字久保 49 番地
 TEL (0884) 76-3111 (代)
- 海陽町観光協会**
 〒775-0502
 徳島県海部郡海陽町久保字板取 219-6
 道の駅「穴喰温泉」内
 TEL (0884) 76-3050
<http://www.kaiyo-kankou.jp/>
- 海陽町教育委員会**
 〒775-0202
 海陽町四方原字杉谷 73 番地
 海南文化村内
 TEL (0884) 73-1246

海陽町 無形民俗文化財



アクセスマップ

- 徳島市内から車で(国道55号)高知方面に約2時間
- JR徳島駅(特急)から約1時間40分
 阿佐海岸鉄道で(海部から約7分)穴喰駅へ到着
- 高速バスで徳島市まで
 徳島・大阪間/約2時間30分 徳島・新神戸間/約1時間50分
 徳島・京都間/約2時間50分 徳島・関西国際空港間/約2時間40分
- 高知方面から
 高知市から車で約3時間。室戸岬から車で約1時間。



区分	種別	名称	所在地	所有者・管理者等	指定年月日	概	要
国指定	天然記念物	穴喰浦の化石漣痕 ^{れんこん}	穴喰浦字古目	海陽町	S54.11.26	地質時代の第三紀始新世(約3,000万年～4,000万年前)に、海底にできた波の模様が土砂の堆積によってできたもの。後に地殻変動によって海面上に隆起して、現在の状態となった。流れ漣痕として、その規模は我が国でも代表的なもので、学術上の価値は高いものである。	
	天然記念物	鈴ヶ峯のヤッコソウ発生地	久保字板取	海陽町	S54.11.26	ヤッコソウは椎の古木の根に寄生する寄生植物で、十数箇所に群生する。発生の北限の一つとして重要な位置を占めている。その他境内地には数多くの腐生植物(シロシヤクジョウ、ホンゴウソウ)があり、学術的にも重要視されている。	
国記録	無形民俗文化財	穴喰八坂神社の祇園祭	久保(八坂神社)	祇園祭振興会	H11.12.3	八坂(阪)神社の祇園祭は、毎年7月16日宵宮祭に奉納煙火大会が行われ、17日の本宮祭では子どもによる舞の奉納や、神輿渡御、大山・小山と呼ばれる大きな笠鉾と3台のだんじり、1台の関船が町内を巡行する。京都祇園祭の山鉾の地方的展開をうかがわせる貴重な事例である。(表紙写真下)	
県指定	有形民俗文化財	大日寺大般若経 ^{だいにはんにやきよう}	穴喰浦(大日寺)	大日寺	S54.11.24	569帖が現存する。建永元年～建保年間(1206～1218)にかけて僧重慶が願主となって書かれた鎌倉本522帖に、江戸期に補充された黄葉本47帖がある。鎌倉期の大般若経は数少なく、歴史的学術的にも価値が高いものである。	
	無形民俗文化財	祇園祭の山鉾行事 ^{やまぼこ}	久保(八坂神社)	山鉾保存会・お能保存会	H15.8.1	山鉾巡行は本宮の17日に久保四ツ辻から八坂(阪)神社まで行われる。この行事は久保地区が主体になるが、組み立てには郷分の9地区も深く関わり、曳き綱は日比原地区が毎年奉納する。古くは稚児が山鉾に乗り、囃子ながら曳いていた。また、境内に帰還した後、山鉾上でお能を奉納し、祭の最後をかざっていた。(表紙写真下)	
町	有形民俗文化財	石仏・山越阿弥陀来迎図 ^{やまこしあみだらいこうず}	穴喰浦(願行寺)	願行寺	S52.4.1	「阿州穴昨長福寺之内米伝作」、「天正18年2月15日」の銘がある。穴喰城代野中氏の一族、野中助兵衛夫婦が逆修供養のため建立されたものである。鎌倉様式を表した図柄はまれにみる見事なもので、仏教文化の高さを如実に表すものとして注目されている。	
	有形民俗文化財	諸国風俗問状穴喰村答書 ^{ふつこくといじょう}	久保	個人	S52.4.1	文政元(1818)年、公儀から出された徳島藩の庶民生活風俗習慣の調査に対する答書で、現存するものは珍しい。県下では高川原の旧庄屋板東為七氏宅のものがある。全国的に数少なく重要な民俗資料である。	
	無形民俗文化財	船津太刀踊り ^{ふなつたちおど}	船津	船津太刀踊り保存会	S59.2.13	平家落人伝説にまつわるこの太刀踊りは、平家一門の末裔たちが、ひそかに主家の再興を願って日頃武芸を練り、その成果を踊りに託したものだ。盆の三日間祖先の霊をなぐさめるために踊ったものが、今もうけつがれているものである。	
	有形民俗文化財	鈴ヶ峰観音堂鐘子 ^{かんす}	穴喰浦(願行寺)	願行寺	S60.1.22	「鈴ヶ峰の観音さんの鐘子」として親しまれていた。応永3(1370)年、鈴ヶ峰円通寺中興の僧、妙法上人と姓公上人がはじめて観音堂を建立した当時のもの。今からおよそ600年前のものと推定され、寺宝の一つと考えられる。この鐘子の煤を落とすと異変がおけるといわれていた。	
	有形民俗文化財	一石五輪塔 ^{いつせき}	穴喰浦(願行寺)	願行寺	S60.1.22	室町、戦国時代の五輪石塔で、岩質は砂岩。天文23(1554)年、永禄5(1562)年の年号があり、本町内の五輪塔で最も古いものである。時代不明のものは五良兵衛(法妙上人)の墓と伝えられている。	
	有形民俗文化財	鈴ヶ峰円通寺梵鐘 ^{えんつうしほんしやう}	穴喰浦(願行寺)	願行寺	S60.1.22	明応4(1492)年の紀年銘があり、太平洋戦争終戦までは、毎日時をつげる快い余韻を近在に響かせていた。現在、願行寺に保管されている。	
	有形民俗文化財	板碑	角坂	個人	S60.1.22	角坂の個人の屋敷内にある観応元(1350)年6月20日の供養碑。砂岩製で、高さ約1.27m、幅約0.4m。室町時代上期のものと推定される。二枚に分かれていたものを継いだである。	
	有形民俗文化財	板碑	塩深(成福寺)	塩深地域	S60.1.22	応永14(1407)年2月13日の供養碑。碑文上部に17人の僧侶の名が、下に年号趣意書を記してある。結衆の逆修のため建立されたもので、高さ約1.8m、幅27cm、厚さ6cm。	
	有形民俗文化財	鰐口	小谷(毘沙門堂)	海陽町	S60.1.22	「応永29(1422)年8月、日敬白奉施人鰐口、細野御前」の銘がある。青銅製で、径18cm、厚さ4.5cm。	
	天然記念物	ハッチョウトンボ	穴喰全域	海陽町	H1.7.4	体長約2cm、羽の長さは2.5cmで、トンボ科では日本最小。雄は体が赤く、雌は茶色と黄色のしま模様がある。5～8月にかけて発生する。小さくてかわいらしいと昆虫マニアなどの間では人気が高い。全国的にその数が減っており、各地で保護の必要性が叫ばれている。穴喰では、2ヶ所確認されている。尾瀬ヶ原湿地帯では国の天然記念物に指定されている。	
	天然記念物	夫婦楠 ^{めおとぐす}	久保(八坂神社)	八坂神社	H5.2.23	八坂(阪)神社の神木。社殿をはさんで対照的な位置にあり、一方が大きく、他方が少し小さいので夫婦楠と命名。大きい方は根元の周囲が約20mで見事な根張りをしており、目通りの高さの幹囲は約7.5m。他の一本は社殿の右側にあり、根元の周囲は約16m、目通り幹囲は約6.5m。両木とも樹形壮大にして樹勢は極めて旺盛である。	
	史跡	狼煙台跡 ^{ろうしだい}	乳崎半島・竹ヶ島	海陽町	H7.10.12	藩政時代、海上警備のため遠見番所が設置され、異常を発見したとき、これを速やかに報告するため、そこに狼煙台が設けられた。県南海岸に10ヶ所あり、竹ヶ島を起点に乳崎、大島、恵比須浜トウノ岬、阿部鹿の首、伊島、泊大神子を経て徳島藩に伝えられた。竹ヶ島の跡地には痕跡はないが、乳崎は原形を留めている。	
指定	無形民俗文化財	穴喰の団七踊り	穴喰浦	団七踊り保存会	H10.4.1	この踊りは、もともと対岸の紀州から伝わってきたものといわれている。奥州白石村での宮城野、しのぶ姉妹による親の仇討ちをもとにした踊りで全国に広まった。踊りの仕組みは三人一組で、中央の団七は両手に太刀、娘はそれぞれ薙刀と鎖鎌を持って、音頭の調子に合わせて踊る。	
	史跡	穴喰古墳	久保	海陽町	H10.4.1	もともと現在の県民グラウンド内にあった古墳の玄室を、残存した石をもって原形を復元し、現在の場所に移設した。風化が進み、玄室が地表に現れていた。砂岩を用いた横穴式石室を持つ。6世紀末頃の古墳。	
	有形民俗文化財	海部刀 ^{かいぶとう}	四方原(町立博物館)	海陽町	H10.4.1	室町から江戸時代にかけて、ここ下灘地方では海部刀の製造が盛んに行われた。穴喰にも多くの刀工があり、その中のひとりに海部氏次がいる。長さ38.4cm、幅4cmの脇差には「完昨住氏次」の銘がある。	
	天然記念物	竹ヶ島生痕化石 ^{せいこん}	穴喰浦字竹ヶ島	個人	H10.4.1	化石漣痕と同じ約3,000～4,000万年前の砂岩層の面に残っている生物の這い痕の化石。長さ約2m。二枚貝のものと考えられている。	
	天然記念物	ハマナツメ	穴喰浦字那佐	海陽町	H10.4.1	南方系の植物で起源が古く、化石としてよく発見される。自生は少なく、本県では、本町那佐の防潮堤内側等に限られ、その余命をつないでいる。	
	有形民俗文化財	穴喰村の古地図	久保	個人	H10.4.1	寛政年間(1789～1800)、徳島藩測量方、岡崎三蔵が測量したものと推定される。穴喰浦をはじめ、旧枝村10ヶ村の極めて精密な測量による彩色された絵図である。	
	天然記念物	豊門の大ヒノキ ^{とよもん}	久尾	海陽町	H10.4.1	本町久尾部落より14km奥地の字名豊門の町有林内にある。県下最大のヒノキの巨樹で、地上1.5mの幹周約6m、樹高約15m。樹勢は極めて旺盛である。	
	有形民俗文化財	震潮記 ^{しんちやうき}	穴喰浦	個人	H10.4.1	安政2(1855)年11月5日、与頭庄屋田井税伯(寛内)が、永正、慶長、宝永、嘉永の地震、津波等による穴喰浦の災害について克明に記録したものだ。極めて貴重な民俗資料である。	

穴喰は徳島の最南端に位置する町です。古くは「脚咋別」と呼ばれ、5世紀の初め「驚住王（景行天皇の曾孫）」の一族によって開拓されたといわれています。その後「大化の改新（645年）」による荘園時代に入ると、穴喰は「皇室」や「高野山」と交渉をもつようになり「海産物」や「海部刀」などを商品とした「大陸貿易」などによって、文化的にも経済的にも発展することとなりました。「応仁の乱（1467年〜）」後には、豪族として力を蓄えていた「驚住王」の子孫の一族によって再び統治されるようになり、土佐の「長宗我部元親」に侵攻をゆるすまで続きました。

そうした群雄割拠の時代、穴喰は「穴喰川」を挟んで南北二つの町からなっていました。南町は今の「正梶」地域一帯にあり（愛宕城も現在の「角力取山」にありました）当時は、この南町を中心として栄えていましたが、永正9年（1512年）の大津波により、南北両町は残らず流失してしまいました。愛宕城主「藤原朝臣孫六郎元信」は、城を現在の「愛宕山」に移し、海岸の大松原を全て伐採すると共に、北、南、西の山林からも木を切り出し、人々の家づくりにあてたといわれています。再建された社寺や民家は1805軒、町は平安京にならい区画され、井然とした「城下町」として復興されました。しかし、町はその後も「慶長9年」「宝永4年」「嘉永7年」と震潮に襲われ、そして復興されてきたことが、穴喰浦と頭庄屋「田井家」に伝わる文獻「震潮記（安政2年）」から解ります。穴喰の歴史は災害からの復興の歴史でもあるのです。

穴喰川の上流地「塩深」には「驚住王」を祀った「大山神社」があり、この地域が穴喰発祥の地だといわれています。

鈴ヶ峰（395m）

珍しい寄生植物「ヤッコソウ」の自生地

阿土国境の古都

「驚住王」と「日本三祇園」の町

しし くい
穴 喰

散策絵地図



「祇園祭」には県内で唯一の「山鉦」が盛大に登場します。

「穴喰古墳」始祖「驚住王」の一族の墳墓といわれ、規模は四国でも屈指のものでした。

日本三祇園の一つ「八坂（ハ坂）神社」

祇園山（38m）

中世、南北二城の一つ「祇園山城（北城）」がありました。

愛宕山（25m）

「愛宕神社」「弁天神社」

「永正の震潮」後、この山に愛宕城を移し、この城を起点として町がつけられました。

「穴喰小学校」「町立穴喰図書館」

「町役場穴喰庁舎」

「町民センター」

「お山の杉の子」歌碑

「長屋」

「鍛冶屋町」

「寺町」

「三味」

「うらまち」

「横町」

「穴喰漁民会館」

「蛭子神社」

「八坂（ハ坂）神社」

「御旅所」ともなります。

「町並みビューポイント」

「穴喰川」

「穴喰港」

「穴喰漁協」

「穴喰大橋」

「穴喰大橋」

「穴喰大橋」

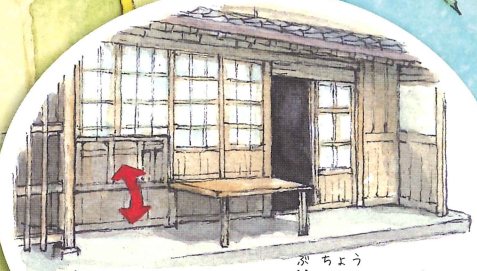
「穴喰大橋」

「穴喰大橋」

「穴喰大橋」

「穴喰大橋」

正梶



町中にはミセ造り（蔀帳）も多く中には珍しい「二連」のものも残されています。

「穴喰橋」（カモノ橋）

「弁天山（35m）」

「戦没者忠魂碑」

「南海地震津波高標柱」

古目「大師堂」

「古目番所跡」

藩政時代、土佐との国境にあたる古目の番所（関所）は「阿波の五大関所」に数えられるほどの重要な関所でした。

近年の調査で「うだつ」に似た「化粧小屋根」の付いた民家も数軒見つかっています。

穴喰の民家は「切妻屋根」の「平入り」形式が一般的で、「厨子造」や「出桁」といった特徴要素があります。

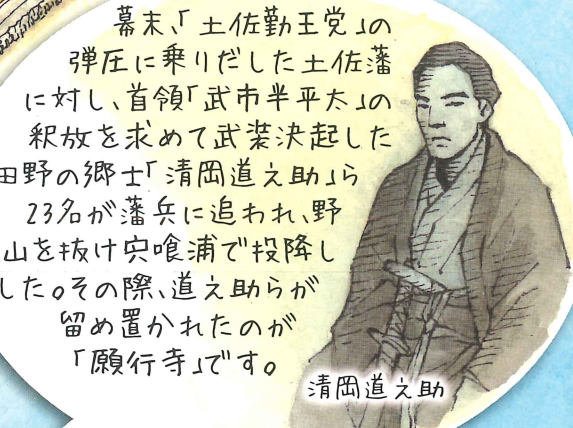
穴喰の民家は「切妻屋根」の「平入り」形式が一般的で、「厨子造」や「出桁」といった特徴要素があります。

穴喰の民家は「切妻屋根」の「平入り」形式が一般的で、「厨子造」や「出桁」といった特徴要素があります。

穴喰の民家は「切妻屋根」の「平入り」形式が一般的で、「厨子造」や「出桁」といった特徴要素があります。

穴喰の民家は「切妻屋根」の「平入り」形式が一般的で、「厨子造」や「出桁」といった特徴要素があります。

穴喰の民家は「切妻屋根」の「平入り」形式が一般的で、「厨子造」や「出桁」といった特徴要素があります。



幕末「土佐勤王党」の弾圧に乗りだした土佐藩に対し、首領「武市半平太」の釈放を求めて武装決起した田野の郷士「清岡道之助」ら23名が藩兵に追われ、野根山を抜け穴喰浦で投降しました。その際、道之助らが留め置かれたのが「願行寺」です。

その後、道之助らは牟岐浦の「海蔵寺」等に送られ、20日余り置かれた後、土佐藩へ引き渡されましたが、裁きを受けぬまま奈利川河原で処刑されてしまいました。報を聞いた「中岡慎太郎」は嘆き悲しんだといわれています。

「国道55号線」は、海抜の低い穴喰浦を、津波から守るための防潮堤の役割を果たしています。高さは8~10mあります。

国指定天然記念物

3~4千万年前の海底の様子が化石になって、地表に現れた「化石連痕」

絵地図／小部 博正